

令和6年度

# 高川原学校 「学力向上実行プラン」

## 学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 自分で考え、判断し、進んで学習する児童の育成
- ポジティブな行動支援を取り入れた授業の実践

### ◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

#### (1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○教科学習や読み聞かせ等、言葉を大切にしたり取り組みを継続することで、語彙が増えつつある。 ●身に着けた技能の定着や適切に使う力が、十分に身につけていない。	・80%以上の児童が、これまでに習った文字や漢字を使うことができる。 ・80%以上の児童が、これまでに習った計算ができる。	・練習問題に取り組む時間を確保するとともに、短時間にできるマス計算やミニ漢字テストなどを継続的に取り組む。	・引き続き、マス計算やミニ漢字テストに取り組む。	・ミニテストにおいて、漢字、計算ともに80%以上の児童に習得がみられる。しかし、学習後に、長期的にみると定着が十分ではない児童が多い。	・繰り返し既習の漢字や計算の定着を図る。 ・達成状況が児童にもよく分かるように、「漢字を使う」という表現を「読んだり書いたりできる」に変える。

#### (2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○タブレットや従来のツールを使うことで、表現の工夫やお互いの考えを知ろうとする姿が見られる。 ●自分の思いを自分の言葉でまとめたり、伝えたりする力に課題がある。	・60%以上の児童が、聞いたことや伝えたいこと・考えたことを、自分の言葉や図・表などを使ってまとめたり、表現したりできる。	・意見を集約したり、考えを分かりやすく表現したりするために、指導法を工夫する。	・他の学年や学級の様子や成功例を共有し、いろいろと試せるようにする。	・60%以上の児童が、表現しようとしており、ある程度達成できたと思われる。しかし、簡潔にまとめるなど、分かりやすく表現することに課題がある。	・表現方法の具体例を提示するなど、表現力の向上を図る。 ・目標を達成できた実感できる児童を増やす。

#### (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○つばやきには、よいものがあり、少人数の話し合いには、進んで参加しようとする姿が見られる。 ●進んで発表する児童が固定されている。	・80%以上の児童が、1時間に1回は、進んで挙手できる。	・様々な学習形態を取り入れ、主体的に学習へ取り組む意欲の高揚に繋げる。	・他の学年や学級の様子や成功例を共有し、いろいろと試せるようにする。	・「80%以上の児童が、1時間に1回挙手できる」という目標は達成できなかった。しかし、主体的に学習に取り組んでいる姿は、増えたように感じられる。ペア学習など、学習形態の多様化が原因ではないかと考えられる。	・挙手だけでなく、ポジティブな行動支援を取り入れ、様々な方法で主体的に学習に取り組む姿を目標とする。

## 令和6年度 学力向上ロードマップ

